めぶく。プラットフォーム前橋
（地域人材の育成・定着に向けた産学官連携基盤推進協議会）
第４回会議（第３回総会）
議事要旨

Ⅰ　日時

令和２年　７月１３日（月）午前１０時００分～１１時１４分

Ⅱ　場所

前橋市役所　庁議室

Ⅲ　出席者

委員・オブザーバー　１７名　※別添「第４回会議（第３回総会）出席者名簿」参照

Ⅳ　会議経過･発言要旨

１　開会

（事務局）

ただいまから、めぶく。プラットフォーム前橋　第４回会議を開会します。なお、今回は、第３回総会として開催をさせていただきます。開会にあたり、本協議会の会長である山本市長より、ご挨拶をいただきます。山本市長、よろしくお願いします。

【市長あいさつ】

おはようございます。前橋の教育、学習、そして学び、様々の分野を担っていただいている方々を中心に、めぶく。プラットフォーム前橋が、いよいよ色々な形での実用に向かっての稼働が始まる旨のご報告を受けております。大変頼もしく、そしてありがたく思っている次第でございます。これが実を結び、前橋の学びの都市としての機能を一層高めていただくべく、本市としても一生懸命支援をして参りたいと思います。

また、曽我商工会議所会頭には本当にありがとうございます。どうぞこれからもご指導よろしくお願いいたします。

（事務局）

ありがとうございました。本日は、これまでの経過をご報告させていただくとともに、今年度以降の取組み方針をご協議いただきます。

なお、本日の会議では、出席者間での共有を目的に会議録を作成させていただきます。前回同様、会議録として公表する際には発言者名を非表示とすることで対応させ

ていただきたく存じますのでご承知おきください。

それでは、早速ですが議事に入らせていただきます。会則では、総会の議長は会長または会長が指名した者が務めることとしております。会長より、運営委員会の委員長である共愛学園前橋国際大学の大森学長を指名したいとの意向を伺っておりますので、大森委員にお願いしたく存じます。よろしくお願いいたします。恐れ入りますが、大森委員様、議事の進行をお願いします。

２　議事

（1）報告事項　これまでの経過について

【大森学長あいさつ】

おはようございます。本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。本来であればもっと早い時期にこの総会を開かせていただき、市長からもお話がありましたとおり、いよいよ実行フェーズに入る年度でありました。しかし、ご承知のようにこのような状況です。皆様におかれましても色々な対応に追われていると思いますし、全ての大学が遠隔授業などでなんとか学びを繋げるということに、この数か月取組みをされてきたと思います。やっと皆様とお会いして、ある意味では実質的なスタートができるというところです。遅れをとりましたが、本日ご協力いただいたことを実行に移してまいればと思っておりますので、本日の審議どうぞよろしくお願いいたします。

着座にて進行させていただきます。よろしくお願いいたします。本日は、1時間程度ということでお時間を頂戴しています。報告事項として、だいぶ時間が経ちましたのでこれまでの経緯を報告させていただき、その後、審議として今年度以降の取組みについて具体的にご審議いただければと思います。

それでは、報告事項ということでこれまでの経緯について事務局から説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

＜事務局より、資料１～５に基づきこれまでの経緯を説明＞

（共愛学園前橋国際大学　大森学長）

ありがとうございました。これまでの経緯ということで、ヒアリングをしながら課題を抽出し、今後の取組みの具体的なテーマに落とし込んでいくというところで合意を得たところだと思います。このあと今年度の説明をしていただいた後に、協議の時間をとりたいと思いますが、今の段階で事実確認やご質問があればお願いします。

＜委員、オブザーバーからの発言なし＞

（2）審議事項　今年度以降の取組方針について

（共愛学園前橋国際大学　大森学長）

　では、審議に入らせていただきます。協議事項であります、今年度以降の取組方針について事務局から説明をいただきたいと思います。そのあと皆様から様々なご意見頂戴したいと思います。では事務局、よろしくお願いいたします。

＜事務局より、資料６～８に基づき説明＞

（共愛学園前橋国際大学　大森学長）

　ありがとうございました。それでは、ここから協議を行って参りたいと思います。ご質問やご意見等をお話いただければと思いますが、先ほど事務局より少し話を振られた件について、進行役ですが少しお話をさせていただきます。

　スピード感については正直に申し上げて遅いと感じております。立ち上げ後、だいぶ時間がかかってしまっており、これについては出来る限り皆さんの意見を集約したいという理由もあったのですが、そろそろ目に見えるものを作っていかなければならない時期にきているのかと思っています。

　曽我会頭や、市長からもお話をいただいたリカレント教育の必要性ですが、大学にとってリカレント教育はまだまだ本筋でなく、しかし地域にとって重要なことであり大学の使命であるとも心得ています。

　そこで実行のために計画した際、学生の学費をリカレント教育に回すというのは筋が合わないというところもあり、実施するにあたり行政や産業界の皆様からもご協力、ご支援をいただきながら地域のためにやっていこうということが、そもそものスタートのイメージでした。

　協力体制を整えていくため、色々なヒアリングをさせていただくと、なんとなくでは協力のしようが見えてこないということで、具体的に姿がみえる必要があるのではないかというお話がありました。

　そのようなことで、共愛学園としても今年度このために学内で 400～500 万の予算を組みましたのでスタートできる覚悟はもっています。ご意見をいただきながら、本プログラムをつくる中で様々なご協力をお願いしながらしっかりしたものを作りあげていければよいかと思っております。今年はきちんと形を見せることをお約束したうえで、ご意見をいただけたら有難いと思います。どなたからでも結構です。ご意見、ご質問いただけますか。

（学校法人平方学園　桜井理事長）

　人材の定着については、行政の説明で介護職の離職について、仕事が大変だからお

金を出すという発想があると思うが、この説明では人材は定着しないと思います。説明の仕方として、重要な仕事だから給料をたくさん出すという発想でないと。これは保育分野にも言えると思いますが、その辺りの説明の仕方を考えなくてはならないと感じています。

また、リカレント教育については短大では中々手を出しにくい部分もありますが、共愛学園がリカレント教育に向けた準備を進めておられるとのことで、今後色々と考えなくてはと思っています。メンバーとして専門学校の代表者が入ってもらうことが良いと思います。人材の定着や、前橋市の発展のためにも専門学校は大きな力を持っていると思いますので、今後考えていくべきことかと感じています。

もう一点、全世代型キャリア教育プログラムについてですが、やはり忘れてならない１つとして、元になる家庭での教育や地域社会での教育があると思います。基礎をつくる部分では家庭や地域が重要な役割を果たすと思いますので、それらを今後進めていく場合にはプラットフォームの中で意識を持っていかないと足元がふらつくような心配がでてくるのではないかと思います。やはり、前橋は色々なこともやっていて、仕事がしやすい、住みやすい場所ということと共に、家庭や地域がしっかりしているから子供たちが育ちやすい場所だということが必要なのではないかと思います。そういった意識を取り入れながら取り組んでいただくことが重要ではないかと感じました。

（共愛学園前橋国際大学　大森学長）

ありがとうございます。専門学校の皆さんに参画をしてもらうべきではないかという話は、ここ数回の中でも中島先生からも勿論ありましたし、その他のメンバー、また今日は桜井理事長からもお話いただきました。しっかりと検討しなければならないので事務局で引き取り、どういう形で進めていくか中島先生にもアドバイスをいただきながら組織体から代表者に入っていただくか、個々の学校で入っていただくほうがよいのか相談させていただき、検討して皆様に案をお示しできるようにしたいと思います。

それから、職業支援の際の支援の在り方や広報の仕方、家庭教育や社会教育についてのお話ですが、まさにここで重点に置いた全世代型キャリア教育プログラムの中にしっかりと落とし込まなければいけない重要なご示唆だと思います。職業の意義をしっかりと教育しながら、家庭教育や社会教育についても教育委員会ともタッグを組みながらプラットフォームとしてどうサポートや協働ができるかを考えていきたいと思います。ありがとうございます。

（前橋商工会議所：（学）有坂中央学園 中島理事長）

前橋商工会議所の労務・人材育成専門委員会の委員長として出席しております。こ

の中に専門学校の線も入ってきているということで、是非、委員の立場でもご相談させていただいて、よろしくお願いしたいと思います。

また、リカレント教育については、本来は循環教育ということで、昔から繰り返し行っているものです。特に産業界の社会に出た人たち、また産業界の意見を取り入れたような人材育成が本来のリカレント教育だと思うのです。それを一番求めているのではないかと思っておりますので、専門学校はリカレント教育の最たる教育機関でもありますので、それも含めて加えさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

（共愛学園前橋国際大学　大森学長）

ありがとうございます。大変心強いです。他にはいかがでしょうか。

（前橋商工会議所：曽我会頭）

文化がこういう形になってきていると、理系、文系を融合したような組織の重要性は大きくなっていると思います。そしてそれがある意味では、リカレント教育の一つのテーマになるのではないかという気がします。

例えば、働き方改革等で働ける時間が短くなり、質の高い（頭が良いという意味でなく広い意味での）、力のある人材を、企業は育てる機会を多くもっていかないと、企業そのものが競争の中で埋没していってしまう恐れがある。できれば企業のみでなく、あらゆる組織がそのような質の高い人材を今まで以上に、専門学校で学ぶようなことを更に高いレベルで教育し直しができる形で、公立大学法人の理事という立場からも公立大学を通して考えたいと思います。

本当ならば、リカレント教育専門の施設のようなものを前橋の街中につくり、各大学が協力し合い専念できるような組織でなければ、各大学任せでは中途半端になる恐れがあるのではないかと私は思います。

（共愛学園前橋国際大学　大森学長）

ありがとうございます。これから求められる人材像についての大変貴重なお話をいただきました。文理融合型ということで、その他の所で群馬大学さんから新しい学部のご説明もあると思いますが、そのめぶきがこの群馬でも起こっているということで大変楽しみでもあります。

会頭からおっしゃっていただいたリカレントの拠点についてですが、まさにめぶくプラットフォームをベースに、物理的にもそういう拠点ができて常に何かニーズに即したプログラムが走っているところまでいけたら良いなと、箱も含めて事務局の方から議論しているところであります。そのためには集めるべきものは、かなり集めなくてはいけないのですが。プレモデルケースを作り、様々な体制のための支援の

輪を広げていければと思います。
　曽我会頭、公立大学法人の話がありましたが、これは県立の場合、市との関係性をどう整理するかということでしょうか。

（前橋商工会議所：曽我会頭）
　公立でも私立でも関係なく、スクラムを組んでやることが、より重要なのではないかなと思います。色々な組織の中で枠は外してしまっていいのではないかと思います。設置者など重要な部分もありますが、一歩外に出た活動展開をする時は、あまり考えない方がいいのではないかと私は思います。

（共愛学園前橋国際大学　大森学長）
　勿論、健科大さんは前橋の大事な大学ですので加わってもらいたいと思います。公立大学の法人化で 2 大学運営法人ができ、諸々が落ち着いた時には、かなり力を発揮してくださるのではないかなと期待します。

（前橋商工会議所：曽我会頭）
　健康、医療、福祉を推している前橋ですから、ものすごく重要だと思います。

（県民健康科学大学　岩上補佐兼教務係長）
　公立大学法人化して今年 3 年目ということで、中々まだ落ち着かない中、高田学長は理事長としても色々考えながら進めているところです。本プラットフォームの取組みにつきましても関心をもっております。そういった中でお話をいただいた県域というところと今回の活動の前橋市域というところでのバランスを考えなければいけないといったことも念頭に置きながら、関心をもって今回ヒアリングいただいた際にも出来る限り協力させていただいた次第です。

（共愛学園前橋国際大学　大森学長）
　大学からは何かご意見ありますか。工科大はいかがでしょうか。

（前橋工科大学　宮下理事長）
　本学は、前橋市立の大学ですので前橋に対する社会貢献、これは教育研究の他のもう一つの大きな使命ということで、地域貢献に頑張っていきたいということで進めている所です。そういった意味では本プラットフォームには大変期待しているところです。
　重点事業につきましては、お話のとおり難しいところもありますが、特に“③企業拠出（寄付）等による「奨学金の返済支援制度」”は、前々から出ており、今年度中

にはなんとかという話ですが、特に市内企業の就職促進の面で工科大は市内に留まる学生が少ないということで、我々が地域貢献の中でインターンシップ事業や共同研究で研究室と市内企業との連携などで市内就職促進を行っていました。しかし、前橋、あるいは群馬県は奨学金の返済支援制度というものがないのですが、全国的には多数実施している地域がございます。工科大の学生もそういった地域にとられてしまう部分がありますので、ぜひ具体的に進めていただけると我々は連携事業の方で頑張りますのでお願いをしたいところでございます。

市内の学生が市内大学に進学し市内に就職するというのが一つのテーマであります。コロナの影響で講堂に集まることは難しいですが、就職支援や高校生を対象とした学内の紹介などもウェブでできるように進めています。そういった部分での連携もできるのではないかと思います。基礎教育では、今まで学校に行かなければ授業を受けられなかったが、リモートで授業を受講できるとなると新たな連携が進む気がしています。

あとは、前橋市内の経済の発展の面で、企業が元気になるという部分で貢献をしたい部分もあります。最近では前橋商工会議所さんが太陽誘電さんと色々やられているということで、太陽誘電の常務さんが大学にもおみえになり工科大との間に入っていただきました。世界進出している大変大きな会社ですが、色々な地域とやっていきたいとのことで、具体的に県内企業と幾つか新しい事業を始めるそうです。工科大でも企業と太陽誘電だけでは難しい部分に、大学の教諭が入り、何か新しいことが進められるといいのではないかということで、そういった面で、太陽誘電だけでなく世界に出ていく企業と市内企業の結びつきの中に市内大学が加わり地域経済の発展に繋げられるといいなと思っています。

中々、具体的な事業は進みにくいですが積極的に関わっていければよいなと思います。よろしくお願いします。

（共愛学園前橋国際大学　大森学長）

ありがとうございます。連携事業をお願いできれば嬉しく思います。奨学金の話については、前橋市はこれから検討しますが、県では制度を整えたところですよね。ご紹介いただけますか。

（群馬県労働政策課　今井係長）

労働政策課とは別に企画課が今年から取り組んでいるのですが、県では就職された新しい職員の方に奨学金の返済を支援している企業を対象に補助をする制度として今年から取り組んでおります。先日周知が始まりこれからというところです。

（前橋市市長）

具体的にはどういうものですか。

（群馬県労働政策課　今井係長）
本日資料をお持ちしておらず恐縮ですが、企業が職員に対し返済支援をした場合にその二分の一の額を上限付きで補助する形だったかと思います。直接担当していないため内容が間違っていたら申し訳ないのですが、企業が支援する一部を県が補助するといったものです。

（前橋市　市長）
県が二分の一支援して、市が四分の一支援すれば、企業の負担は四分の一になりますね。いいアイデアですね、ぜひ宣伝してください。

（共愛学園前橋国際大学　大森学長）
前橋の企業は四分の一になるかもしれない手があるということですね。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

（群馬医療福祉大学　鈴木秘書室長）
リカレント教育については課題になっておりまして、大森学長が仰っていたように進めていかなければならない一方、学生が今のところ中心になっており、特に先ほどあがった介護につきましては 18 歳人口を理由にする訳ではないのですが、介護人材が非常に不足しているのが現状です。
一方で本学でもリカレントとして社会人の方も入っていただいております。ただ現状では 10 名程度の状況です。出口の部分を考えると今のところ人材が足りていない現状です。これを打破するためにどうするかということで、医療、福祉分野ですと生活に密着する仕事に就く訳で、生活をしっかりサポートしていきたいというのが本望です。第一にその人材をしっかりと育てていくということが近々の課題となっております。質の高い人材を育てる為には、我々がしっかりそういった分野を根付かせなければいけないということで、今回リカレント教育を含め協働でやっていき、やがては前橋の地で人材が職に就き、またその人材が次の次世代を育てるという循環を作っていきたいと思っています。

（共愛学園前橋国際大学　大森学長）
ありがとうございます。産業界からとして岡庭さんいかがでしょうか。地方創生をされていらっしゃると思いますが。

（前橋商工会議所：（株）群馬銀行コンサルティング営業部地域創生室　岡庭室長）

先ほどから曽我会頭はじめ各先生方のお話を聞き大変勉強になりました。リカレント教育についてはテーマとして今の産学の中でも取り上げられていますし、特に全世代型キャリア教育プログラムについては勉強したいと思っておりますが、全世代で課題を共有するということは非常に大切かなと感じました。産業界では事業承継、価値のある事業をやっておられる方々が若い方と共有してこれは残していかなければならない、といったキッカケになれば非常に素晴らしいと思います。

（共愛学園前橋国際大学　大森学長）

ありがとうございます。やはり事業承継という課題が地方経済にとっては非常に重要だとヒアリングの中で各社長さんからお話を伺っています。このリカレント教育の中では各企業の中堅人材をしっかりと育てて、次代の後継者を担ってくれるようなそういうブラッシュアップができるプログラムを作れるといいね、ということでした。実際にプログラムを作る際は理屈だけではできないので、産業界の皆さんにも入っていただき、こういったことを学ぶ必要があるということを指導いただきながら作っていきたいなと考えています。

（群馬大学　花屋副学長）

本学は国立大学という位置づけの中で、資料６の「前橋で学ぶ」についてはキャンパスを前橋市にもっていますので非常に重要なところだと思います。

「前橋で働く」では、新しい産業創出に対して国立大学として高度な研究力を持ってお手伝いをする。また、新しい医療を展開し、地域医療を支える。これが本学の役割だと思います。

「前橋で生きる」に関しては、地域医療に加えて、平成２９年から開始しております食健康科学教育研究センターを中心とした活動を通して、群馬県は食品加工業の出荷額が輸送機器に次いで第二位になっていますので、新しい産業創出につながるものを検討しながら、食べて元気になることや、未病などを本学の病院、保健学研究科、さらに理工学府の教員も参画して取り組んでいるころです。

本日うかがいましたお話の中ですと、リカレント教育に関しては、本学としてすでに進めているものもございます。ただ、前橋の中で、と限定した形になった時には、「世界に羽ばたく人材を！」としている部分での矛盾があり、設計の難しさがある。そういった意味ではリカレント教育で前橋の新しい産業創出をできるような教育を展開できればと考えているところです。

案②の全世代型キャリア教育プログラムについては、実質的には公開講座やシンポジウム、小中高を対象とするという意味では、前橋市に限ったものではないのですが県の中でということで、「ちびっこ大学」を開催し、毎年お盆の時期に大学の教員が子供たちを相手に入浴剤を作ったり、理科に対するハードルを下げようという

ことで取り組みを続けており、それなりの人数の参加をいただいています。前橋市内の小学校、中学校の、特に理科が得意でない先生にご参画いただいて、後ろ盾に我々が入り、継続的な理科に関する学びの展開を提示することができればいいなと考えております。

ただ、大学教員が教えてくれる方がありがたいという親御さんも多く、小中学校の先生は日頃の忙しさもあり、お盆の時期にこういった企画を一緒に実施することは大変だということも存じておりますが、少しずつ根っこの部分で進めていければいいなと思いを強くしているところです。

めぶくプラットフォームの下支えの部分で機能し、キャリア教育プログラムが根付いていく中で、実質的な協力が可能になっていく。そうなってきたところで、より密な連携を検討させていただきたいと考えています。

（共愛学園前橋国際大学　大森学長）
ありがとうございました。前橋には全世代型キャリア教育プログラムのベースとなる、キャリア教育で全国 2 位に輝いている市立前橋高校の街をベースにした非常に素晴らしい取組みもあります。大学も複数関わっていますし、産業界も関わってやっていますので、広がっていくといいなと思います。他にはいかがでしょうか。須田理事長はいかがでしょうか。

（学校法人共愛学園　須田理事長）
経過報告や今後の取組みを聞いて大変すばらしいと思っております。

ただ、これを裏付ける財政的な面ですが、国からの補助金などは期待できるのでしょうか。また、予算や決算が資料としてあがってこないので気になっております。分かる範囲でお答えいただければと思います。

（共愛学園前橋国際大学　大森学長）
ありがとうございます。事務局の方でも原案を考えているところですが、プラットフォームとしての予算組みができるところまでは進んでおりませんので、まずモデルとなるような事業を立ち上げ、その事業運営費として協力できるところはしていこうという風になるか、あるいはプラットフォームの運営補助として市や産業界や大学からも少し予算を出していただいてというような計画はしていますが、合意には至っていないので予算・決算についてはこのような段階です。

国からの補助金に関しては、プラットフォームそのもののガイドラインがやっとできた段階なので今後ということになるかと思います。私学に対しては、プラットフォームを組んだということで本学の予算くらいのものが出ているというところがあるので、それを充ててそれぞれの事業をやっていこうというところです。持続的なプラットフ

ォームの維持、運営が今後の大きな課題になってきますが、今は理念だけなので、お金を出し合おうというのは少し早い段階かと思います。いずれご相談をさせていただければと思います。

（商工会議所：曽我会頭）
　これだけの動きができるのは良い大学、専門学校が揃っているからだと思います。全国的に見ても前橋市は素晴らしいと思うのです。大都市としては京都が産学連携はトップを走っているが、地方都市における産学連携（プラットフォーム）として、この試みは評価できる。実際にどう取り組むかとなると、将来的には事務局をしっかり作り、前橋の中心市街地を中心とした街づくりでも新しい構想の中で、官民一体となった形で動こうとしている。たとえば、図書館をつくろうとしているが、図書館は色々な意味で大事な施設だと思うので、リカレント教育をする場をしっかり入れ込むという形でやれば、前橋の街はいくらでも人を育てやすいという評価が高まり更に前橋の価値が上がるのではないか。ぜひ市長におかれましては具体的に構想から計画に落とし込むレベルでお力添えをいただきたいと思います。

（共愛学園前橋国際大学　大森学長）
　京都の大学コンソーシアムを見に行きましたが、大学が京都の外に出てしまう状況、あるいは潰れてしまうという状況を憂いて京都市が場所や予算を作ったというところもありました。京都を見本にすると難しい部分もありますが、そういう体制があるということは希望としては勿論あると思います。市長いかがでしょうか。

（前橋市　市長）
おっしゃる通りだと思います。まずはビジネススクールを目指すリカレントシステム、市街地の再整備の動きの中で、そのような動きは十分とれるものだと思いますし、それを本プラットフォームに提供することは私も構想として考えておりました。５Ｇ で結び、それぞれの学校から集まった人達のテレスタディもできるかもしれません。色々な可能性を持っています。そのための機運としての本プラットフォームであってほしいと思っています。
　キャリア教育プログラムについては、群馬大学からお話があった、理科の授業のようなものの積み重ねが、子供からシニアまでの色々な形の連携が生まれていくと思います。アカデミックの方からの市民へのアプローチを私たちはお願いしたいと思っています。
　須田理事長からコスト面でのお話もありましたが、それぞれ動きだせば我々も応分の負担をしていく。その意味で③の奨学金については、まさに県から話があったように、県、企業、市がそれぞれ三分の一ずつでどうだろう、そういった応援がもらえる前橋や

群馬で学び、勤めていこうというメッセージだと思います。本市としても、やっていこうという機運が高まれば、我々の三分の一の負担は十分にできるものだと思います。

今申し上げたように、動きだせばそれに伴うコスト、税で賄うのか色々な負担金を頂くのかはこれから知恵だが、現実となればスキームを持って始まっていくと思います。

一部、農に関するお話がありましたが、群馬大学は新しく農業に関するリサーチをつくられるのですか。

（群馬大学　花屋副学長）

農業という形ではないが、食品関係の生産物出荷額が群馬県は高いので、食健康科学という形で新しい産業へ繋げていけないか、食べて元気になるというようなことを、県と連携しながら、理工学府、医学系研究科、保健学研究科の先生方とやっていけないかと始めたのが、平成 29 年 12 月の食健康科学教育研究センターの設置です。更に今年度申請の大学の改組におきましては、理工学部に食品工学プログラムを設け、食品を打ち出した教育システムを強化しているところです。ということで、本学には農学部が直接はございませんが、茨城大学などの近隣の農学部といかに差別化を図り、群馬県に良い影響をもたらせるかを考えています。

（前橋市　市長）

ありがとうございます。前橋はデリカ産業都市でありますので、そういう産業界とのマッチングの中で応援する。また、中島先生のところも農業系の研究もありますので、まとめることで産業界の負担も得られやすいと考えます。私の方はコストについては心配していません。思い切って６大学の連携プラス全ての学の連携が前橋に恩恵をもたらせるように皆様のお取組みに我々は財政的に支援をしていくつもりですので、よろしくお願いいたします。

（共愛学園前橋国際大学　大森学長）

ありがとうございます。プラットフォームを運営していくにあたり、今は共同事務局という形でやっていますが、出来れば事務局体制が整うと色々なスピードが増してくると思っていますので、またその面も改めてご相談させていただければと思います。

お時間となりましたが、たくさんのご意見を頂戴しありがとうございます。今年度はこのように計画の方針を定め、この方針にのっとり具体的なものを皆さんと共有できる形で実施に入っていければということでご承認いただければと思います。そういう形でよろしいでしょうか。それでは事務局におかえします。

３　その他

（事務局）
　大森委員様ありがとうございました。続きまして、その他といたしまして 2 月 25 日に行われました平方学園と共愛学園の学園間大型連携協定につきまして共愛学園前橋国際大学の大森学長よりご報告をいただきます。

（共愛学園前橋国際大学　大森学長）
　お手元に明和学園短期大学と共愛学園短期大学の一枚と、各短大のパンフレットをお配りさせていただきました。昨年度 2 月に前橋市役所を会場に平方学園と共愛学園で連携協定を結ばせていただき、市長にも見届けいただきました。
　その協定の中で短期大学の運営を平方学園から共愛学園に移管し、より学びの幅を広げ、また学びの深みをもって前橋の人材をつくっていきましょうということで協定を結んだところです。現在、文部科学省に設置者を変更する申請をしており、9 月には認可の結果が出るのではないかと思いますので、その後、公に発表できます。
　明和学園短期大学はこれまでも地域の保育人材、栄養士の人材育成を担ってまいりました。専門の資格を活かした就職率は 97%であり地域の専門人材をしっかり育ててきた短大です。私も中に入ってみて分かったのですが教育の質も非常に高く、文部科学省からも高いレベルの評価を受けている取組みがなされています。その取り組みと、本学の経営教育や地域実践教育などが合体していくと、群馬大学では高度な食健康の人材を育成いただき、本学園でそこをしっかりと支える現場の栄養と経営の知識をもった人材、食産業を共に支えていける人材が育てられると思います。勿論福祉などの分野も含めてです。来年 4 月 1 日から新しく共愛学園短期大学部ということで発足いたします。
　元々戦前から平方学園と共愛学園ともに岩神で近くにあったことから親交がありましたが、本プラットフォームで更に親交を深め、このような話となりました。平方学園は今後も明和県央高校と、明和幼稚園を運営されていきますのでお互いに協力しながら人材育成をしっかりやっていきたいと思います。
　プラットフォームが結んでくださったご縁でもありますのでご報告させていただきました。今後ともよろしくお願いいたします。

（事務局　前橋市）
ありがとうございました。本日の議事等は全て終了させていただきましたが、最後に皆様に配布させていただいた資料について、群馬大学の花屋副学長よりご説明いただければと思います。

（群馬大学　花屋副学長）
　皆様に配布させていただきました資料ですが、これは主に高校生を対象とした本学

のオープンキャンパス用に作成したパンフレットです。本年はコロナウイルス対応でオープンキャンパスはオンライン開催を余儀なくされておりますが、トピックスとして、この中から是非二点、ご紹介させていただきます。

一点目、群馬大学では来年度の 4 月を設置予定として、荒牧にキャンパスがあります社会情報学部と理工学部の情報科学コースを統合して、情報社会に人文社会科学と情報科学の双方からアプローチする文理融合型の新学部として、情報学部を設置構想中でございます。現在、文部科学省に申請中であり承認を待っている状態で、8 月末には連絡がくるものと思っております。

情報学部では、ここに示させていいただいているとおり、人文情報プログラム、社会共創プログラム、計算機科学プログラム、データサイエンスプログラム、情報学をコアに結び付けて提供することで、今まで以上に文理のスペクトルの幅を広くカバーして、文理横断型の教育を行っていきます。データサイエンスを基軸として、IoT、ビッグデータ、統計的解析手法のスキルを身につけた人文科学の人材、更に社会科学と自然科学の知識を有した人材を育成していきたいという取組みでございます。

二点目は、理工学部の改組でございます。理工学部を現在の 5 学科制から 2 類制とし、より幅広く色々な形の学修を学生に提供していきます。これにより分野横断的な教育を強化し、IoT 技術や持続可能な社会に向けた課題解決ができる人材を育成していこうと考えています。学生はまず類に所属して技術の基礎に関する幅広い知識を身につけられるようにし、二年次以降に自分の適性にあったプログラムを選び、より専門的な知識を身につけ磨いていくということでございます。

さらに本学では平成 29 年度に新設した食健康科学教育センターを中心に、群馬県、さらに前橋市の食健康に関する研究を進めてまいりましたが、教育機能強化のため、理工学部に食品工学プログラムを新たに設置申請したところでございます。

以上、本学の現在進めている機能強化を紹介させていただきました。文部科学省の正式な承認を受けましたら改めて皆様にご報告ご連絡差し上げます。それまでは構想中ということでご理解いただければと思います。引き続き群馬大学を何卒よろしくお願い申し上げます。お時間いただきありがとうございました。

（事務局）

ありがとうございました。その他全体を通してご意見、ご質問等はございますか。

最後になりますがお手元の資料に大学等就職面接会のチラシがございます。そちらが今年度、県内で一番に今月末開催されることとなりました就職面接会で、群馬労働局様、前橋商工会議所様と本市の共催となりますので情報共有ということで配布させていただきました。

（前橋市市長）

来年は、日経新聞にシニア人材よ、若者よ、そして企業よ、前橋に学びに来たれ、みたいなものが出せるくらいになりそうですね。

4　閉会

（事務局）

ありがとうございました。それではめぶく。プラットフォーム前橋第四回会議を閉会させていただきます。本日は誠にありがとうございました。